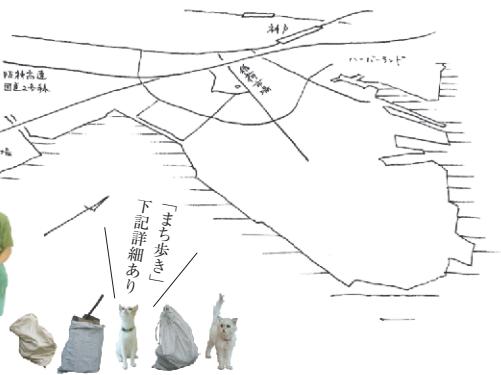


まちのレシピ その①

まちをつくるには建築だけではありません。コミュニケーションも大切な要素のひとつ。今回は、生活中に必要となるキッチン・トイレを「ととのえる」水まわりの工事をご紹介しましょう。

文・写真=赤松麻衣 もしもし広報担当

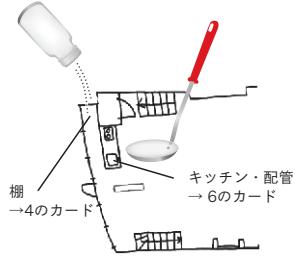


1 今回のお題

{味の
ととのえ方}

住みCommunity Project Report

2 キッチンまわり



キッチンはガス管と排水溝に近く、料理をするのにゆとりがとれる位置に決まりました。後ろには大きな窓もあり、なにをつくっても換気が十分できる場所です。

3 配管工事開始

水まわりの配管工事は、トイレをととのえることから始まりました。解体中、配管が割れていることに気づいたのですが、ずっと水が漏れています。もちろんトイレにも水は通っておらず、近くのコンビニエンスストアまで駆け足する毎日が続いていました。新しい管をしっかりとつなぎで水が流れられるようになると、遠出の手間が省け作業も順調に進んでいきます。

トイレの次はキッチンの工事です。既成のキッチンは値段がとても高いので、『もしもし』オリジナルでつくることにしました。

4 手づくりのキッチン



キッチンのデザインを考え、チョークで位置を把握しながら配管方法を考えていきます。本当に水がしっかりと通るのか心配しながら、手探りの作業でした。



シンクを購入し、コンパネと角材とを組み合わせました。チョークの線を確認しながら土台を組み上げていきます。少しの誤差も許されません。



おおまかに土台が完成したら、使い心地の確認。コンロを置いて実際に立ってみると、なかなかいい感じ。素敵なキッチンに仕上がる予感がしました。



いよいよ配管作業。コンクリートをはつると、塵がもくもく立ちこめます。そんな困難に立ち向かいながらも、きれいにパイプをつなげることができました。



土台に背板をはり、収納部分を確保しました。仕上げに化粧板を使い、コンパネにはオイルステンを塗りました。最後に蛇口を付けて、キッチンの完成です。

5 今月の逸材



『もしもし』の後輩、大崎俊典さん。大崎さんは新しい水道管を埋めるため、コンクリートをたくさんはつってくれました。ベンキ塗りや仕上げ作業でも大活躍。

6 食器の巣



キッチンができたら食器のおうちをつくりました。取り出し口をフリーhandでくりぬき、巣のように仕上げました。食器たちはとっても居心地がよさそうです。

7 いろんな音

キッチンが完成すると、「チカちゃんハウス」の表情はすっかり変わりました。これまでの風景は、雑然とした現場。しかし、キッチンがあるだけで生活感を感じることができます。ピィ～っとお湯の沸く音、トントンと野菜を切る音、ジュウッとお肉を焼く音。完成後の使い方や風景の想像がどんどん湧いてきて、わくわくときどき。キッチンに使用したウォルナット色を、全体の仕上げ作業の色にしていくことも決まりました。

これまで水まわりがととのいました。次回は土間づくりやベンキ塗りの様子を紹介します。

8 水の役割



料理をするための水、のどを潤す水、工事后に顔や手を洗う水。水は多くの役割を担います。水が通ったおかげで、今ではたくさんのことが潤っています。